

Office 365 予定表編

スケジュール連携マニュアル

[Sales Force Assistant シリーズ]



目次

1.はじめに	2
1-1.連携対象製品.....	2
1-2.連携のタイミング.....	2
2.連携機能を使用するためには.....	3
2-1.設定の種類.....	4
2-1-1. Outlook Calendar REST API：共通設定、スケジュール連携：個人設定 手順.....	5
2-1-2. Outlook Calendar REST API：共通設定、スケジュール連携：まとめて設定 手順.....	6
2-2. Outlook Calendar REST API の有効化と認証情報の取得.....	7
2-2-1. Azure AD へのサインイン	7
2-2-2. Azure AD アプリケーションの登録.....	8
2-2-3. 証明書の作成と Azure AD アプリケーションへの反映.....	11
2-2-4. 認証情報の取得.....	14
2-3.システム設定：スケジュール連携.....	15
2-3-1.スケジュール連携を設定する.....	15
2-4.システム設定：社員.....	17
2-4-1.連携情報を登録する.....	17
2-5.オプション設定：スケジュール連携設定.....	19
2-5-1.個人ごとに設定する（Sales Force Assistant シリーズ）.....	19
2-6.スケジュール連携における注意事項.....	22
3.スケジュール連携について	23
3-1. Sales Force Assistant シリーズとの連携	23
3-2-1.連携の特徴.....	24
3-3.iOS 端末（iPhone、iPad）の標準カレンダーアプリ情報との連携.....	25
3-3-1.カレンダー同期.....	25
4.トラブルシューティング.....	26
スケジュール連携設定を行ったが連携されない。.....	26



・本マニュアルについて

Sales Force Assistant 顧客深耕 AO の「コンタクト情報」を「商談情報」と記載しております。

1.はじめに

スケジュール連携機能は、Sales Force Assistant シリーズのスケジュールに登録すると、Microsoft Office 365 (Exchange Online) 予定表(※以下 Office 365 予定表)に連携して自動登録することができます。

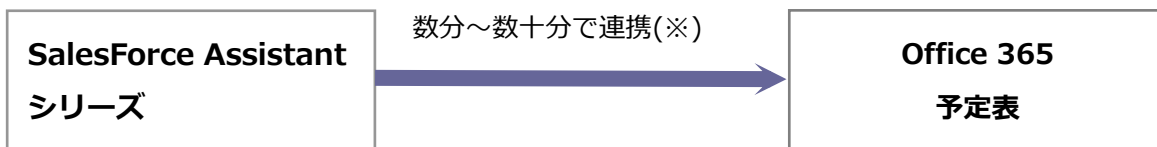
1-1.連携対象製品

Office 365 予定表と連携が可能な対象の製品は以下の通りです。

- ・ Sales Force Assistant シリーズ

1-2.連携のタイミング

スケジュールが連携されるタイミングは以下の通りです。リアルタイムには連携しませんのでご注意ください。



※データ通信量、連携先カレンダーの負荷状況により変動します。



補足

- ・ 複数の連携先システムに対してスケジュール連携を行うことはできません。連携先を1つ選択する必要があります。
- ・ 他連携サービスとの連携は、各連携サービス向けのマニュアルを参照してください。

2.連携機能を使用するためには

スケジュール連携を使用するためには、事前に以下の項目を決定してください。

1. Sales Force Assistant シリーズのスケジュールを Office 365 予定表へ連携するか

A

⇒詳細については、「[2-3.システム設定：スケジュール連携](#)」を参照してください。

※Sales Force Assistant シリーズのスケジュールを Office 365 予定表に連携することが可能です。
Office 365 予定表のスケジュールを Sales Force Assistant シリーズに連携することはできません。

2. スケジュール連携について、個人ごとの変更を許可するか

B

許可する場合

Outlook Calendar REST API を共通で設定し、スケジュール連携を**個人で設定**する

・・・「[2-1-1. Outlook Calendar REST API：共通設定、スケジュール連携：個人設定 手順](#)」を参照してください。

許可しない場合

Outlook Calendar REST API を共通で設定し、スケジュール連携を**まとめて設定**する

・・・「[2-1-2. Outlook Calendar REST API：共通設定、スケジュール連携：まとめて設定 手順](#)」を参照してください。

※許可しない場合、スケジュール連携設定はシステム管理者がまとめて設定/変更しなければなりません。

※A～Bは、システム設定「**スケジュール連携**」で設定を行います。

⇒「[2-3.システム設定：スケジュール連携](#)」を参照し、こちらより設定を始めてください。

2-1.設定の種類

連携機能を使用するためには、下記の設定が必要です。※の設定は必ず必要になります。

①の設定によって、設定しなければならない箇所が異なりますのでご注意ください。(詳細は、前頁を参照してください。)

※運用イメージは、次頁を参考にしてください。

※Outlook Calendar REST API 設定	Azure Active Directory(以下、Azure AD)で、Outlook Calendar REST API の利用設定を行います。 ⇒詳細は、「 2-2. Outlook Calendar REST API の有効化と認証情報の取得 」を参照してください。
①システム設定 「スケジュール連携」	スケジュール連携の全社的な利用について設定を行います。 ⇒詳細は、「 2-3.システム設定：スケジュール連携 」を参照してください。
②システム設定 「社員」	システム管理者が全社員のスケジュール連携の連携有無・連携設定を行います。 ⇒詳細は、「 2-4.システム設定：社員 」を参照してください。
③オプション設定 「スケジュール連携設定」	各社員がスケジュール連携設定を行います。 ※社員ごとにスケジュール連携の設定変更を許可されている場合 ⇒詳細は、「 2-5.オプション設定：スケジュール連携設定 」を参照してください。
 注意	・ スケジュール連携における注意事項について 設定の際は、「 2-6.スケジュール連携における注意事項 」を参照しながら設定を行ってください。

<運用イメージ>

Outlook Calendar REST API 利用設定はシステム担当者で行い、Office 365 予定表と NI 製品スケジュールとの連携は個人（社員）で設定していただくイメージです。

Outlook Calendar REST API を**共通で設定**し、スケジュール連携は**個人で設定**するためには、以下の設定ステップで実施してください。

Step 1

<p>Outlook Calendar REST API の有効化を行う 【共通】</p>	<p>Azure AD で、共通で使用する Outlook Calendar REST API の利用設定を行います。</p> <p>⇒詳細は、「2-2. Outlook Calendar REST API の有効化と認証情報の取得」を参照してください。</p>
---	---



Step 2

<p>システム設定 「スケジュール連携」</p>	<p>システム管理者がスケジュール連携設定を行います。</p> <p>システム設定-スケジュール連携-スケジュール連携設定の「共通認証情報」設定を行います。</p> <p>⇒詳細は、「2-3.システム設定 : スケジュール連携」を参照してください。</p>
------------------------------	--



Step 3

<p>オプション設定 「スケジュール連携設定」</p>	<p>各社員がスケジュール連携設定を行います。</p> <p>※社員ごとにスケジュール連携の設定変更を許可されている場合</p> <p>⇒詳細は、「2-5.オプション設定 : スケジュール連携設定」を参照してください。</p>
---------------------------------	---

<運用イメージ>

Outlook Calendar REST API 利用設定、Office 365 予定表と NI 製品スケジュールとの連携まで全てシステム管理者で管理していただくイメージです。

Outlook Calendar REST API を**共通で設定**し、スケジュール連携を**まとめて設定**するためには、以下の設定ステップで実施してください。

Step 1

<p>Outlook Calendar REST API の有効化を行う 【共通】</p>	<p>Azure AD で、共通で使用する Outlook Calendar REST API の利用設定を行います。</p> <p>⇒詳細は、「2-2. Outlook Calendar REST API の有効化と認証情報の取得」を参照してください。</p>
---	---



Step 2

<p>システム設定 「スケジュール連携」</p>	<p>システム管理者がスケジュール連携設定を行います。</p> <p>システム設定-スケジュール連携-スケジュール連携設定の「共通認証情報」設定を行います。</p> <p>⇒詳細は、「2-3.システム設定 : スケジュール連携」を参照してください。</p>
------------------------------	--



Step3

<p>システム設定 : 社員 「スケジュール連携」</p>	<p>システム管理者が全社員のスケジュール連携の連携有無・連携設定を行います。</p> <p>⇒詳細は、「2-4.システム設定 : 社員」を参照してください。</p>
-----------------------------------	---

2-2. Outlook Calendar REST API の有効化と認証情報の取得

Azure AD で、Outlook Calendar REST API の利用設定を行います。

2-2-1. Azure AD へのサインイン

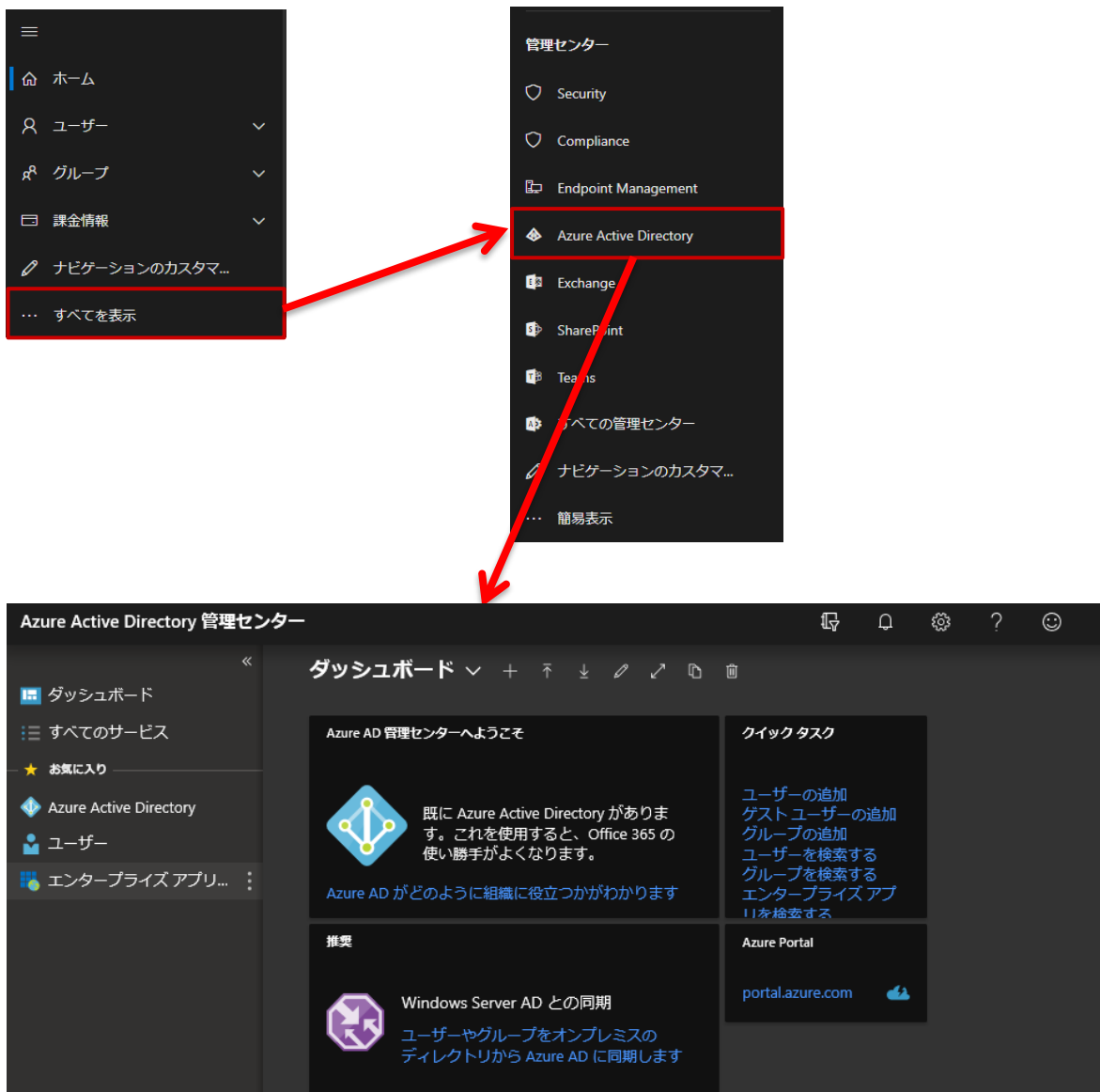
1. 下記のアドレスから Microsoft 365 管理センターに管理者ユーザーでサインインします。

Microsoft 365 管理センター 『 <https://admin.microsoft.com> 』

⇒Microsoft 365 管理センターのホーム画面が表示されます。

2. 画面左メニュー「すべてを表示」>「Azure Active Directory」をクリックします。

3. ⇒Azure Active Directory 管理センターのダッシュボード画面が表示されます。

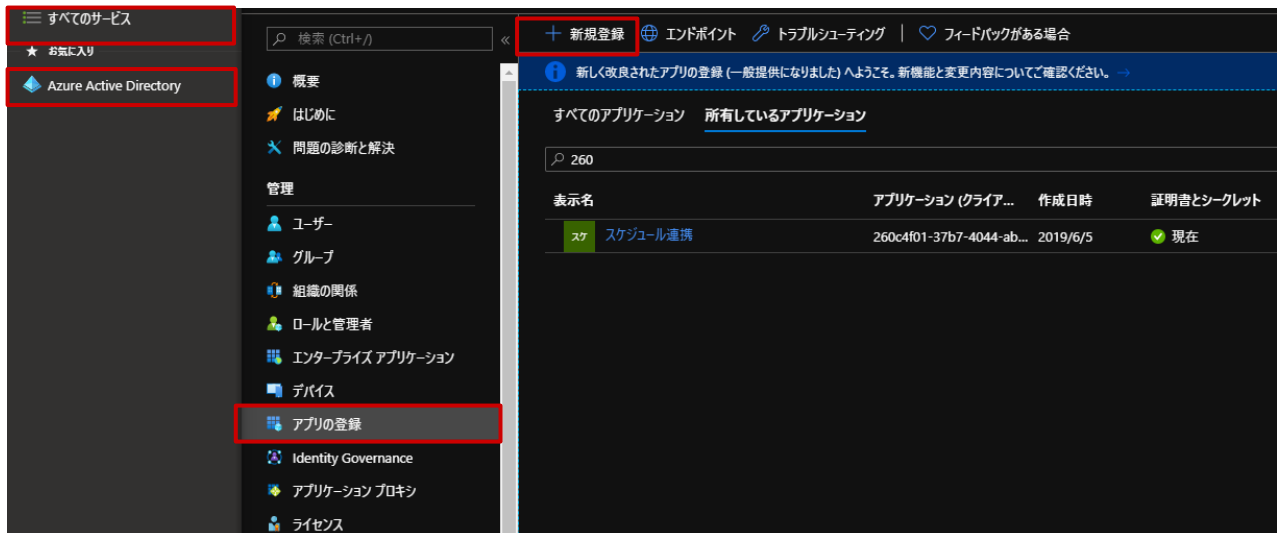


2-2-2. Azure AD アプリケーションの登録

1. 画面左メニュー「Azure Active Directory」>「App registrations」>「新規登録」をクリックします。

※Azure AD の初回アクセス時、左メニューのお気に入り「Azure Active Directory」が登録されていますが、お気に入りには無い場合は、「すべてのサービス」をクリックし、その中から「Azure Active Directory」を選択してください。

アプリケーションの登録画面が表示されます。



2. 以下の入力を行い、アプリケーションの登録を行います。

名前
このアプリケーションのユーザー向け表示名 (後ほど変更できます)。
SFAスケジュール連携

サポートされているアカウントの種類
このアプリケーションを使用したりこの API にアクセスしたりできるのはどれですか?
 この組織のディレクトリ内のアカウントのみ (株式会社XXXXXXXXXX)
 任意の組織のディレクトリ内のアカウント
 任意の組織のディレクトリ内のアカウントと、個人用の Microsoft アカウント (Skype、Xbox、Outlook.com など)

リダイレクト URI (省略可能)
ユーザー認証が成功すると、この URI に認証応答を返します。この時点での指定は省略可能で、後ほど変更できますが、ほとんどの認証シナリオで値が必要となります。
Web | 例: https://myapp.com/auth

登録

(ア) : 任意の名前を入力します。

(イ) : 「この組織のディレクトリ内のアカウントのみ」を選択します。

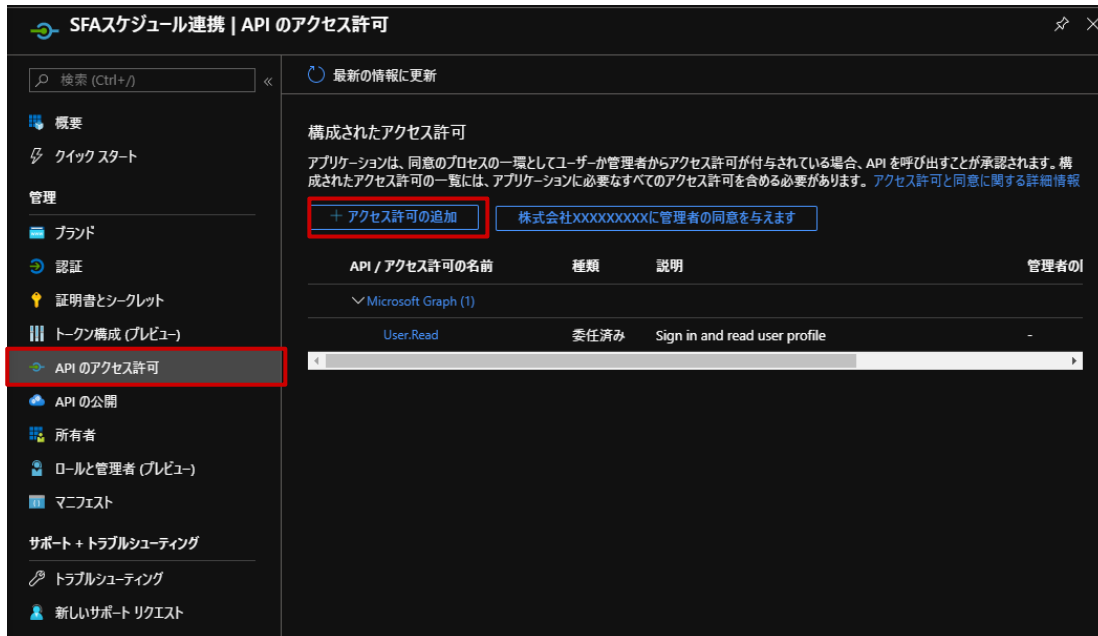
(ウ) : 左プルダウンは「Web」を選択します。右のテキストは、未入力とします。

(エ) : 登録ボタンをクリックします。

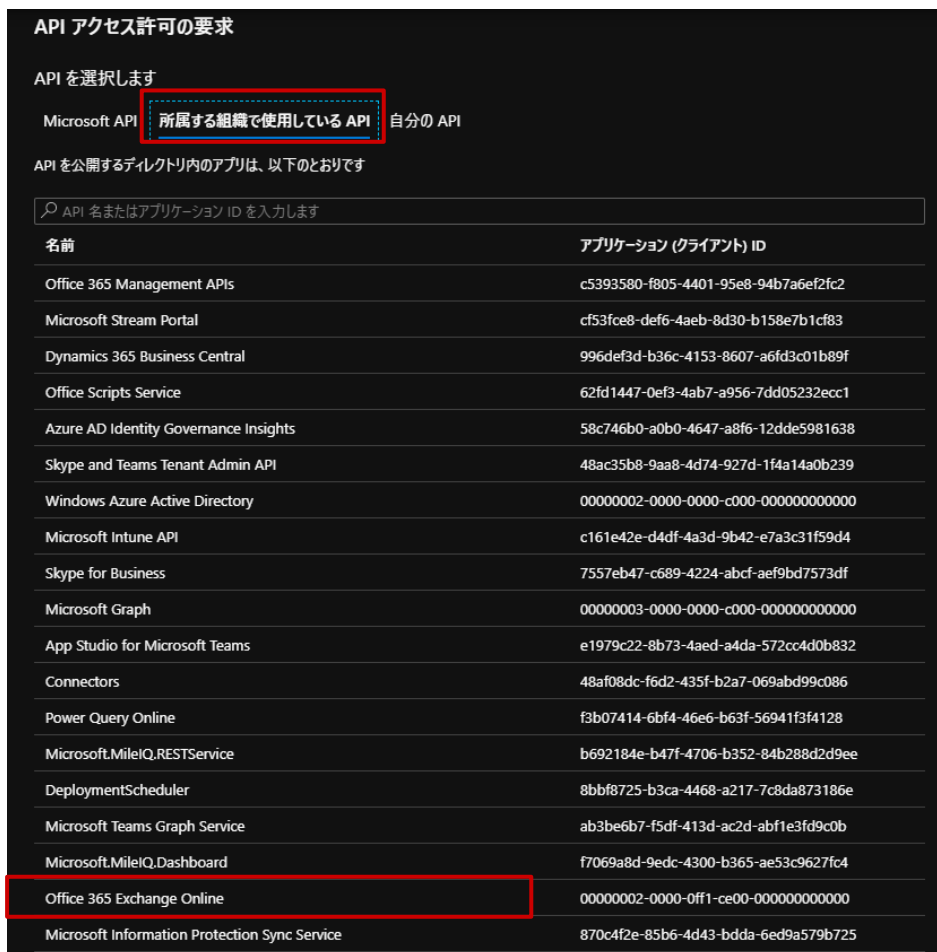
Azure AD アプリケーションが登録されます。

3. Outlook Calendar REST API へのアクセス許可の設定を行います。

(ア) 作成したアプリケーションの「API のアクセス許可」 > 「アクセス許可の追加」をクリックします。



(イ) 画面上のタグから「所属する組織で使用している API」 > 「Office 365 Exchange Online」をクリックします。



(ウ) 「アプリケーションの許可」 > 「Calendars.ReadWrite.All」 > 「アクセス許可の追加」をクリックします。

API アクセス許可の要求

Exchange
https://outlook.office365.com/ ドキュメント

アプリケーションに必要なアクセス許可の種類

委任されたアクセス許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーとして API にアクセスする必要があります。

アプリケーションの許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーなしで、バックグラウンド サービスまたはデーモンとして実行されます。

アクセス許可を選択する すべて展開

検索するテキストを入力

アクセス許可	管理者の同意が必要
<input type="checkbox"/> full_access_as_app Use Exchange Web Services with full access to all mailboxes	はい
▼ Calendars (1)	
<input type="checkbox"/> Calendars.Read Read calendars in all mailboxes	はい
<input type="checkbox"/> Calendars.Read.All Read calendars in all mailboxes	はい
<input checked="" type="checkbox"/> Calendars.ReadWrite.All Read and write calendars in all mailboxes	はい
▶ Contacts	
▶ Mailbox	
▶ MailboxSettings	
▶ Mail	
▶ Tasks	
▶ User	

アクセス許可の追加 破棄

(エ) 「API のアクセス許可」画面にて「管理者の同意を与えます」をクリックします。

API のアクセス許可

アプリケーションが API を使用する承認を得るには、アクセス許可を要求します。これらのアクセス許可は、同意を得るプロセスの間に表示され、ユーザーがアクセスを許可/拒否する機会が与えられます。

+ アクセス許可の追加

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意が必要
▼ Exchange (1)			
Calendars.ReadWrite.All	アプリケ...	Read and write calendars in all mailb...	はい ⚠️ 株式会社XXXXXXXXXX ...
▼ Microsoft Graph (1)			
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	-

これは、このアプリケーションが静的に要求するアクセス許可です。コードを使用して、ユーザーの同意が可能なアクセス許可を動的に要求することもできます。 [アクセス許可を要求するためのベストプラクティスを参照する](#)

同意する

管理者は、このディレクトリのすべてのユーザーに代わり同意を与えることができます。すべてのユーザーに管理者の同意を与えると、エンドユーザーが対象アプリケーションを使用するときに、同意画面が表示されなくなります。

株式会社XXXXXXXXXX に管理者の同意を与えます

(オ) アクセス許可の付与が成功すると画面上に以下のメッセージが表示されます。

検索 (Ctrl+/)

概要

API のアクセス許可

✓ 要求されたアクセス許可の管理者の同意が正常に付与されました。

2-2-3. 証明書の作成と Azure AD アプリケーションへの反映

1. スケジュール連携機能は証明書ベースの認証を uses。

このため第三者認証機関が承認した証明書ファイル(.cer または .crt)を準備します。

弊社クラウドサービス、または NIAWS サービスをご利用の場合は、お客様独自ドメインの公開証明書ファイルを準備してください。

なお、クライアント証明書を使用することも可能です。

2. 公開証明書ファイルを PKCS#12 (.pfx) 形式でエクスポートします。

詳細は認証局の設定手順に従ってください。

一般的なエクスポート方法は、OpenSSL コマンドを使用する方法です。

OpenSSL コマンドについては、以下のサイトでも紹介されていますので参考にしてください。

PFX への証明書のエクスポート

『 <https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/app-service/configure-ssl-certificate#export-certificate-to-pfx> 』

3. Windows PowerShell で公開証明書ファイルから、設定に必要な値を抽出します。

(ア) Windows PowerShell をインストールする。

※OS が Windows 7 以降の PC には初期状態でインストールされていますので、作業不要です。

下記 URL の「ダウンロード情報」項目の中から該当する OS の Windows Management Framework Core パッケージをダウンロードし、インストーラーを実行します。

Windows Management Framework 『 <https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/968930> 』

(イ) スタートメニューより Windows PowerShell を起動します。

「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「アクセサリ」 > 「Windows PowerShell」 > 「Windows PowerShell」

(ウ) 下記コマンドをコピーし、PowerShell に右クリックでペーストします。

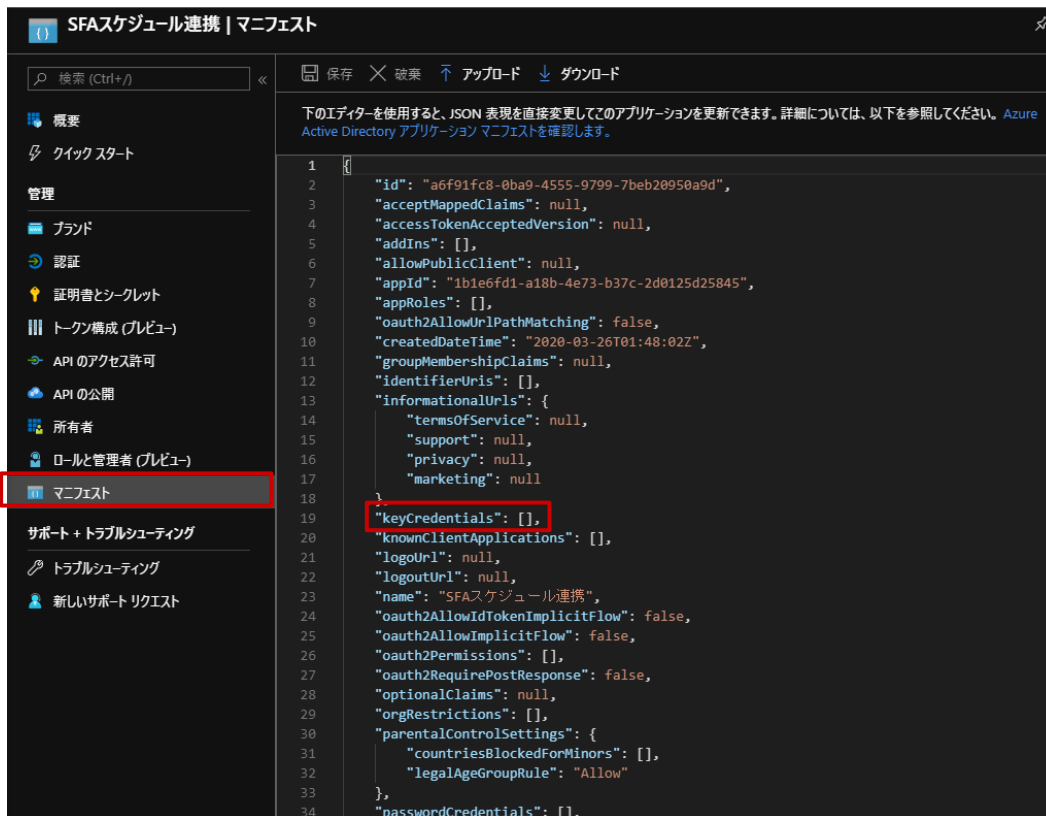
※赤字の部分を適宜修正してください。

```
cd "作業フォルダのパス"
$cer = New-Object System.Security.Cryptography.X509Certificates.X509Certificate2
$cer.Import("公開証明書ファイルのパス")
$bin = $cer.GetRawCertData()
$base64Value = [System.Convert]::ToBase64String($bin)
$bin = $cer.GetCertHash()
$base64Thumbprint = [System.Convert]::ToBase64String($bin)
$keyid = [System.Guid]::NewGuid().ToString()
echo $base64Value > base64Value.txt
echo $base64Thumbprint > base64Thumbprint.txt
echo $keyid > keyid.txt
```

⇒作業フォルダに3つのテキストファイル「base64Value.txt」、「base64Thumbprint.txt」、「keyid.txt」が出力されます。

4. Azure AD アプリケーションのマニフェストファイルの編集を行います。

(ア) 作成したアプリケーションの「マニフェスト」をクリックします。



(イ) エディターの空の KeyCredentials プロパティを次の内容に置き換えます。

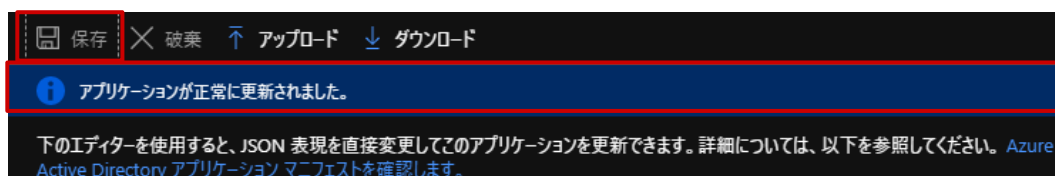
- ・変更前

```
"keyCredentials": [],
```

- ・変更後(※赤字部分に、[前項](#)で出力したテキストファイルの内容を反映してください。)

```
"keyCredentials": [  
  {  
    "customKeyIdentifier": "base64Thumbprint.txt の内容",  
    "keyId": "keyid.txt の内容",  
    "type": "AsymmetricX509Cert",  
    "usage": "Verify",  
    "value": "base64Value.txt の内容"  
  }  
],
```

(ウ) 変更が完了したら保存ボタンをクリックします。保存に成功すると画面上に以下のメッセージが表示されます。



2-2-4. 認証情報の取得

登録したアプリケーションから「[2-3.システム設定：スケジュール連携](#)」に必要な情報を取得します。

1. クライアント ID を取得します。

作成したアプリケーションの「概要」をクリックします。画面右に表示されるアプリケーション(クライアント ID)の項目を確認してください。(「[2-3-1.スケジュール連携を設定する](#)」で使用します。)

2. OAUTH 2.0 トークン エンドポイントを取得します。

作成したアプリケーションの「概要」>「エンドポイント」をクリックします。「OAuth 2.0 トークンエンドポイント(v1)」を確認してください。(「[2-3-1.スケジュール連携を設定する](#)」で使用します。)

※「OAuth 2.0 トークンエンドポイント(v2)」は使用しません。

SFAスケジュール連携

検索 (Ctrl+/) << 削除 エンドポイント

概要

クイックスタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

表示名
SFAスケジュール連携

アプリケーション (クライアント) ID
1b1e6fd1-a18b-4e73-b37c-2d0125d25845

ディレクトリ (テナント) ID
62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8

オブジェクト ID
a6f91fc8-0ba9-4555-9799-7beb20950a9d

サポートされているアカウントの種類
所属する組織のみ

リダイレクト URI
リダイレクト URI を追加する

アプリケーション ID の URI
アプリケーション ID URI の追加

ローカル ディレクトリでのマネージド アプリケーション
SFAスケジュール連携

SFAスケジュール連携

検索 (Ctrl+/) <<

概要

クイックスタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

トークン構成 (プレビュー)

API のアクセス許可

API の公開

所有者

ロールと管理者 (プレビュー)

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート リクエスト

OAuth 2.0 承認エンドポイント (v2)
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/oauth2/v2.0/authorize>

OAuth 2.0 トークン エンドポイント (v2)
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/oauth2/v2.0/token>

OAuth 2.0 承認エンドポイント (v1)
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/oauth2/authorize>

OAuth 2.0 トークン エンドポイント (v1)
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/oauth2/token>

OpenID Connect メタデータ ドキュメント
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/v2.0/.well-known/openid-configuration>

Microsoft Graph API エンドポイント
<https://graph.microsoft.com>

フェデレーション メタデータ ドキュメント
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/federationmetadata/2007-06/federationmetadata.xml>

WS-Federation サインオン エンドポイント
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/wsfed>

SAML-P サインオン エンドポイント
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/saml2>

SAML-P サインアウト エンドポイント
<https://login.microsoftonline.com/62fab46a-338f-4105-b62d-5a79298270e8/saml2>

2-3.システム設定：スケジュール連携

スケジュール連携の全社的な利用について設定を行います。



・スケジュール連携に必要な条件について

Office 365 予定表に連携するためには、製品がインストールされているサーバーから、**443 ポート**を通じて <https://outlook.office365.com>、<https://login.microsoftonline.com> へアクセス可能な環境が必要です。社内のご担当者あるいはネットワーク業者へご確認ください。

・予定表のデフォルト値が選択されている場合

予定表が公開(共有)になっていると、登録されたスケジュールも全て公開(共有)される為、ご注意ください。

2-3-1.スケジュール連携を設定する

- システム設定の **運用管理** より「**スケジュール連携**」の「**基本設定**」を選択します。
⇒「スケジュール連携／基本設定」画面が表示されます。
- 必要事項を設定し、最後に **保存** ボタンをクリックします。

スケジュール連携 *:	<input checked="" type="radio"/> 連携する <input type="radio"/> 連携しない
連携サービス *:	Office 365(Exchange Online) ▼
個人ごとの設定変更 許可:	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 許可しない
連携サービスへの登 録:	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
共通認証情報	
クライアントID:	<input type="text" value="XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX"/> <small>Azure ADアプリケーションのクライアントIDを指定します。 例: XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX</small>
連携キーファイル:	<input type="text" value="ドラッグ&ドロップで貼り付けることができます。"/> <input type="text" value="XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.pfx"/> <small>作成したpfx証明書ファイルを選択します。 例: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.pfx</small>
パスワード:	<input type="password" value="....."/> <small>pfx証明書ファイルにパスワードが設定されている場合のみ入力します。</small>
拇印:	<input type="text" value="XXXXXX"/> <small>x509公開証明書ファイル(cer)から取得した拇印を入力します。</small>
ドメイン名:	<input type="text" value="xxxxx.onmicrosoft.com"/> <small>Office 365(Exchange Online)で利用するユーザーのドメイン名を指定します。 例: xxxxx.onmicrosoft.com</small>
OAUTH 2.0 トーク ンエンドポイント:	<input type="text" value="https://login.microsoftonline.com/xxxxx/oauth2/token"/> <small>OAUTH 2.0を使ってアクセストークンを取得するURLを、Azure AD管理画面よりコピー＆ペーストして指定します。 例: https://login.microsoftonline.com/xxxxx/oauth2/token</small>

	項目名称	説明
	スケジュール連携	Office 365 予定表とのスケジュール連携機能を利用するかしないか選択します。
	連携サービス	連携するサービスを選択します。
B	個人ごとの連携設定の変更許可	<p>社員ごとに連携設定を行うことを許可するかしないかを選択します。</p> <p>「許可する」場合 「オプション設定」 - 「スケジュール」メニューに「スケジュール連携設定」が追加されます。 ⇒詳細は、「2-5. オプション設定：スケジュール連携設定」を参照してください。</p> <p>「許可しない」場合 システム設定画面から、利用社員分の連携ユーザーID等を指定します。 ⇒詳細は、「2-4. システム設定：社員」を参照してください。</p>
A	連携サービスへの登録	Sales Force Assistant シリーズのスケジュールを、Office 365 予定表に登録するかしないか選択します。
	共通認証情報	<p>Office 365 スケジュール連携で、共通利用する Outlook Calendar REST API への認証情報を指定します。</p> <p>クライアント ID Azure AD アプリケーションの一意的な ID です。 取得手順は、「2-2-4. 認証情報の取得」を参照してください。</p> <p>連携キーファイル Azure AD との認証に使用する証明書が必要です。 「2-2-3. 証明書の作成と Azure AD アプリケーションへの反映」で作成した pfx 形式の X.509 証明書ファイルを選択します。</p> <p>パスワード 連携キーファイルにパスワードが設定されている場合のみ、パスワードを指定します。</p> <p>拇印 連携キーファイルに指定した X.509 証明書の拇印を指定します。 「2-2-3. 証明書の作成と Azure AD アプリケーションへの反映」で取得した base64Thumbprint.txt の内容をコピー & ペーストしてください。</p> <p>ドメイン名 Office 365 で利用するユーザーの@マーク以降を指定します。 NI 製品各ユーザーの社員設定またはオプション設定で「NI 製品の社員ログイン ID を利用する」が選択されている場合、「社員ログイン ID@ドメイン名」を Office 365 のユーザーIDとして、スケジュール連携します。</p> <p>OAuth 2.0 トークン エンドポイント OAuth 2.0 を使ってアクセストークンを取得する URL を指定します。 取得手順は、「2-2-4. 認証情報の取得」を参照してください。</p>

2-4.システム設定：社員

システム設定メニューから、スケジュール連携の連携有無・連携設定を社員ごとに行います。

2-4-1.連携情報を登録する



補足

- ・システム管理者が一括設定する場合、各社員の連携の有無、ユーザーID 設定、連携ユーザーID/連携先カレンダーはこの画面より設定を行います。

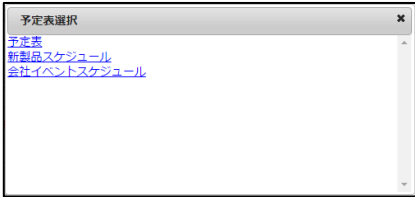


注意

- ・**連携開始時の連携情報について**
製品と Office 365 予定表を連携させた場合、**連携がONになった時点から**の情報が、Office 365 へ送信されます。
※Sales Force Assistant シリーズの連携開始前の情報が、Office 365 側へ自動で送信されることはありません。**連携設定以降に登録・更新を行った情報**が、Office 365 側へ送信されます。
- ・**設定の際、以下の注意事項も併せて確認してください。**
⇒詳細は、「[2-6.スケジュール連携における注意事項](#)」を参照してください。

1. システム設定の **基本設定** より「社員」の「[社員一覧](#)」を選択します。
⇒「社員/社員一覧」画面が表示されます。
2. スケジュール連携する社員を選択します。
⇒編集画面が表示されます。
3. 「スケジュール連携」項目にて、必要事項を入力し最後に **保存** ボタンをクリックします。
4. 次に、正しく連携されているかどうかを確認します。
基本設定 より「スケジュール連携」の「[ログ](#)」を選択します。
⇒「スケジュール連携/ログ」画面が表示されます。
5. 一覧画面にエラーログが表示されていないかを確認します。
エラーが表示されている場合は、その内容にしたがって設定をご確認ください。
※エラー内容の具体例については、「[4.トラブルシューティング](#)」を参照してください。

スケジュール連携	
スケジュール連携：	<input checked="" type="radio"/> 連携する <input type="radio"/> 連携しない <input type="radio"/> 使用禁止 [Office 365(Exchange Online)] スケジュール連携可能製品をご使用の場合のみ、有効な設定項目となります。 (Sales Force Assistant シリーズ)
ユーザーID設定：	<input checked="" type="radio"/> 個別にOffice 365(Exchange Online)ユーザーIDを設定する <input type="radio"/> NI製品の社員ログインIDを利用する
連携ユーザーID：	<input type="text" value="xxxxxxxxx@example.onmicrosoft.com"/> Office 365(Exchange Online)のユーザーIDを指定します。 例：xxxxxxxxx@example.onmicrosoft.com
連携先カレンダー：	<input type="text" value="予定表"/>   連携先カレンダーが未指定の場合、ユーザー標準の予定表が連携先となります。

項目名称	説明
スケジュール連携	スケジュール連携機能を利用する場合、以下の項目を設定してください。 ※この設定を有効にするためには、「運用管理」-「スケジュール連携」-「基本設定」のスケジュール連携項目の「連携する」を選択してください。
スケジュール連携	個人ごとの連携状態を指定します。 ※「使用禁止」について 個人ごとの連携設定の変更が許可されている場合、特定の社員のみに使用を禁止する設定です。この設定により、個人ごとの設定許可も禁止されるため使用不可となります。
ユーザーID設定	個別に Office 365 ユーザーID を設定するか、NI 製品の社員ログイン ID を利用するかを選択します。 ※「NI 製品の社員ログイン ID を利用する」を選択した場合、連携ユーザーID の項目が非表示になり、「社員ログイン ID@ドメイン名」を Office 365 のユーザーID としてスケジュール連携します。 ※ドメイン名は「システム設定」-「運用管理」-「スケジュール連携」-「基本設定」より設定してください。
連携ユーザーID	Office 365 ユーザーID を指定します。 ※NI 製品の社員ログイン ID を利用する場合は、入力不要です。
連携先カレンダー	連携したい Office 365 予定表を選択します。 

2-5.オプション設定：スケジュール連携設定

各社員が個別にスケジュール連携について設定を行います。



補足

- ・システム設定「スケジュール連携」の「個人ごとの設定変更許可」を「許可しない」場合、この画面は非表示となります。



注意

・連携開始時の連携情報について

製品と Office 365 予定表を連携させた場合、**連携がONになった時点から**の情報が、Office 365 へ送信されます。

※Sales Force Assistant シリーズの連携開始前の情報が、Office 365 側へ自動で送信されることはありません。**連携設定以降に登録・更新を行った情報**が、Office 365 側へ送信されます。

・設定の際、以下の注意事項も併せて確認してください。

⇒詳細は、「[2-6.スケジュール連携における注意事項](#)」を参照してください。

2-5-1.個人ごとに設定する（Sales Force Assistant シリーズ）

1. 左メニューより「[オプション設定](#)」を選択します。
⇒オプション設定画面が表示されます。
2. オプション設定メニューから「スケジュール連携設定」を選択します。
3. 「スケジュール連携設定」の「連携する」を選択します。
⇒設定項目が下側へ追加されます。

Sales Force Assistant 顧客深耕R > スケジュール/スケジュール連携設定

保存

スケジュール連携設定：
 連携する 連携しない

スケジュール連携しない場合は、連携用の設定内容は保存されません。

4. 「ユーザーID 設定」「連携ユーザーID」「連携先カレンダー」を入力し、

連携確認 ボタンをクリックします。

⇒エラーメッセージが表示された場合、「[4.トラブルシューティング](#)」を参照してください。

5. その他必要事項を入力し、最後に **保存** ボタンをクリックします。

保存

スケジュール連携設定: 連携する 連携しない
スケジュール連携しない場合は、連携用の設定内容は保存されません。

ユーザーID設定: 個別にOffice 365(Exchange Online)ユーザーIDを設定する
 NI製品の社員ログインIDを利用する

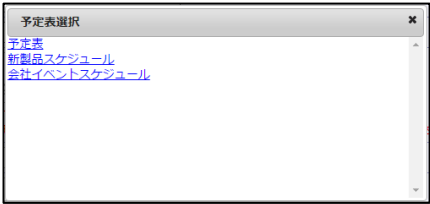
連携ユーザーID*:
Office 365(Exchange Online)のユーザーIDを指定します。
例: xxxxxxxxxxx@example.onmicrosoft.com

連携先カレンダー*:

連携先カレンダーを変更した場合、前月始めからのスケジュール情報を同期します。


連携確認

「連携確認」ボタンを押すと、設定を保存し、連携先のカレンダーが利用可能か確認できます。

項目名称	説明
スケジュール連携設定	Office 365 予定表とスケジュール連携するかしないか選択します。
ユーザーID 設定	個別に Office 365 ユーザーID を設定するか、NI 製品の社員ログイン ID を利用するかを選択します。 ※「NI 製品の社員ログイン ID を利用する」を選択した場合、連携ユーザーID の項目が非表示になり、「社員ログイン ID@ドメイン名」を Office 365 のユーザーID としてスケジュール連携します。 ※ドメイン名は「スケジュール」-「スケジュール連携設定」より設定してください。
連携ユーザーID	Office 365 ユーザーID を指定します。 ※NI 製品の社員ログイン ID を利用する場合は、入力不要です。
連携先カレンダー	連携したい Office 365 予定表を選択します。 

商談情報連携設定	<input type="checkbox"/> 定期訪問 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 商品 P R <input type="checkbox"/> 新規開拓 <input type="checkbox"/> 案件商談 <input type="checkbox"/> 納品 <input type="checkbox"/> 集金 <input type="checkbox"/> クレーム対応
スケジュール連携の対象外にする商談目的をチェックしてください。	
商談情報連携設定 (訪問件数としてカウントしないもの)	<input type="checkbox"/> TEL・FAX・MAIL <input type="checkbox"/> *未選択*
スケジュール連携の対象外にする商談目的(訪問件数としてカウントしないもの)をチェックしてください。	
業務情報連携設定	<input type="checkbox"/> 資料作成 <input type="checkbox"/> 伝票発行 <input type="checkbox"/> 会議 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> *マスタ設定値以外* <input type="checkbox"/> *未選択*
スケジュール連携の対象外にする業務名をチェックしてください。	
<input type="button" value="保存"/>	

項目名称	説明
商談情報連携設定	連携 対象外 にする商談情報「商談目的」(訪問件数カウント分)を選択します。
商談情報連携設定 (訪問件数としてカウントしないもの)	連携 対象外 とする商談情報「商談目的」(訪問件数カウント外)を選択します。
業務情報連携設定	連携 対象外 とする業務情報「業務名」を選択します。

 補足	<ul style="list-style-type: none"> ・「実績」の商談・業務はスケジュール連携の対象外です。 ・なお、「予定」が「実績」となったスケジュールも連携対象外となります。
---	--

2-6.スケジュール連携における注意事項

Office 365 予定表と連携する際の注意事項は、以下の通りです。

	項目	説明
1	連携可能な Microsoft 製品	<p>① Exchange Online の各プラン https://products.office.com/ja-jp/exchange/compare-microsoft-exchange-online-plans</p> <p>② Office 365 のプランのうち法人向けに設計された予定表が使用可能なプラン https://products.office.com/ja-jp/business/compare-more-office-365-for-business-plans</p> <ul style="list-style-type: none">• Office 365 Business Essentials• Office 365 Business Premium• Office 365 Enterprise E1、E3、E5 <p>以下は、Exchange Online が使用できないため未サポートとなります。</p> <ul style="list-style-type: none">• Office 365 Business• Office 365 ProPlus
2	スケジュールの 公開設定	<p>Sales Force Assistant シリーズから連携されたスケジュールは、常に公開(非公開のチェックが OFF の状態)となります。</p> <p>ただし、Office 365 予定表は個人用のため、予定表自体を組織内の他ユーザーと共有、または、組織外に一般公開していない限り、公開スケジュールは本人のみ閲覧可能となります。</p>
3	終日イベントの 設定	<p>Sales Force Assistant シリーズから連携されたスケジュールを「終日」のイベントに変更しないでください。連携によるスケジュールの更新時に、開始、終了時刻の矛盾が生じ、エラーとなります。</p>
4	標準以外のカレ ンダーを選択す る場合	<p>Sales Force Assistant シリーズと連携する連携先カレンダーを変更する場合、変更した予定表の前月月初までの期間を同期します。</p> <p>そのため、連携先カレンダーを変更した場合、スケジュールが重複する可能性があります。重複したスケジュールは、Office 365 予定表にて削除してください。</p> <p>※連携先カレンダーの変更は、社員情報と個人オプション設定から可能です。</p> <p>※前月月初までの期間を同期する処理は、オプション設定でのみ実行されます。</p>

3.スケジュール連携について

3-1. Sales Force Assistant シリーズとの連携

Office 365 予定表と Sales Force Assistant シリーズを連携することができます。

Sales Force Assistant シリーズのスケジュールに登録すると、Office 365 予定表に自動連携されます。

[Sales Force Assistant シリーズ:スケジュール画面]

The screenshot shows the 'SalesForce Assistant' interface for 'DMV情報 (月スケジュール)'. It displays a monthly calendar for July 2019. The calendar grid shows dates from 7/1 to 7/21. Most dates are marked '予定作成' (Schedule Created). On July 11, there is a specific event: '10:30 定期訪 赤木電機'. On July 18, there is another event: '10:30 案件商 赤木電機'. The interface includes navigation tabs for '先月へ', '今月へ', and '翌月へ', and a search bar at the top right.

Office 365 予定表へ

[Office 365 予定表画面]

The screenshot shows the Outlook calendar interface for July 2019. The calendar grid shows dates from 6/30 to 7/20. On July 11, there is a linked event: '10:30 赤木電機/定期訪問'. The event is highlighted with a red box, and a red arrow points from the event in the Sales Force Assistant screenshot to this event in the Outlook screenshot. The Outlook interface includes a search bar at the top and a sidebar on the left with navigation options.

3-2-1.連携の特徴

連携の特徴は、以下の通りです。

[Sales Force Assistant シリーズ ⇒ Office 365 予定表]

「場所」項目について

Office 365 予定表の「場所」項目は、商談予定の顧客プロフィールに登録された「住所」を自動的にセットします。

The screenshot displays two side-by-side windows. The left window is a calendar view for '木曜日' (Thursday) with a date of '2019/07/11 (木) 10:30'. It shows an event titled '赤木電機/定期訪問' with a location field containing '東京都千代田区'. The right window is a '顧客プロフィール' (Customer Profile) for '赤木電機'. It lists various details such as '顧客名', '法人番号', and '住所'. The '住所' field is highlighted with a red box and contains '東京都千代田区'. A red arrow points from the location field in the calendar event to the '住所' field in the customer profile, illustrating the automatic data transfer.

商談情報・業務情報の更新

Office 365 予定表側から更新された商談情報・業務情報の内容は、Sales Force Assistant シリーズ側には反映しません。

※Sales Force Assistant シリーズ側で更新された内容は、Office 365 予定表側へ更新します。

対象となる商談情報・業務情報

対象となる情報は、**予定情報**のみです。(※実績情報は対象外)

なお、予定から実績となった場合も対象外となる為、Office 365 予定表は予定のまま残ります。

3-3.iOS 端末 (iPhone、iPad) の標準カレンダーアプリ情報との連携

弊社製品のスケジュールを Office 365 予定表を経由し、iOS 端末 (iPhone、iPad) の標準カレンダーアプリで、参照することができます。



補足

- ・動作確認は iOS 端末の標準カレンダーでのみ行っております。
標準カレンダー以外の iOS 端末向けアプリとの連携については動作未確認となります。

3-3-1.カレンダー同期

Office 365 予定表と iOS 端末の標準カレンダーを同期するには、Outlook.com を使って同期してください。

Outlook.com を利用する方法

アカウントを追加の画面で Outlook.com を選択し、メール・連絡先・カレンダー・メモ等を同期する設定の内、カレンダーを連携する機能を利用する。

https://support.office.com/ja-jp/article/%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%82%92-iPhone%E3%80%81iPad%E3%80%81iPod-Touch-%E3%81%A7%E3%82%BB%E3%83%83%E3%83%88%E3%82%A2%E3%83%83%E3%83%97%E3%81%99%E3%82%8B-b2de2161-cc1d-49ef-9ef9-81acd1c8e234?ui=ja-JP&rs=ja-JP&ad=JP#BKMK_iOSmailapp



補足

- ・iOS 端末の標準カレンダーにて更新された商談情報・業務情報の内容は、Sales Force Assistant シリーズ側には反映しません。

4.トラブルシューティング

スケジュール連携設定を行ったが連携されない。

スケジュール連携ログより、エラーログが記録されていないかご確認ください。エラーが表示されている場合、その内容にしたがって設定をご確認ください。エラーの内容が不明で連携できない場合、NI コンサルティングサポートデスクまでお問い合わせください。

■ 設定箇所

システム設定の **運用管理** より「**スケジュール連携**」の「**ログ**」

Office 365 予定表連携時のエラーログ具体例	説明
予定表取得処理でエラーが発生しました。 (500:ErrorInternalServerError) The SMTP address has no mailbox associated with it.	ユーザーID が誤っている可能性があります。 社員情報、または、個人オプション設定からスケジュール連携設定を再設定してください。
認証処理でエラーが発生しました。 (400:unauthorized_client) AADSTS70001: Application with identifier xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx was not found in the directory xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Trace ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Correlation ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Timestamp: 2015-01-01 00:00:00Z	登録された情報で Azure AD への認証に失敗している状態です。 クライアント ID が誤っている可能性があります。
認証処理でエラーが発生しました。 (401:invalid_client) AADSTS70002: Error validating credentials. AADSTS50012: Client assertion contains an invalid signature. Trace ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Correlation ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Timestamp: 2015-01-01 00:00:00Z	登録された情報で Azure AD への認証に失敗している状態です。 Azure AD にアップロードした情報と異なる証明書のファイルを指定している可能性があります。
pfx 証明書ファイル読み込みエラーが発生しました。	証明書ファイルの形式が違う、または、証明書ファイルのパスワードが誤っている可能性があります。
認証処理でエラーが発生しました。 (400:unauthorized_client) AADSTS70002: Error validating credentials. AADSTS50064: Credential validation failed. Trace ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Correlation ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Timestamp: 2015-01-01 00:00:00Z	登録された情報で Azure AD への認証に失敗している状態です。 拇印が誤っている可能性があります。

Office365 予定表連携時のエラーログ具体例	説明
<p>認証処理でエラーが発生しました。 (400:invalid_request) AADSTS90002: No service namespace named 'xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx' was found in the data store. Trace ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Correlation ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx Timestamp: 2015-01-01 00:00:00Z</p>	<p>登録された情報で Azure AD への認証に失敗している状態です。 OAUTH 2.0 トークン エンドポイントが誤っている可能性があります。</p>
<p>認証処理でエラーが発生しました。Unable to connect to ssl://login.microsoftonline.com:443. Error: php_network_getaddresses: getaddrinfo failed: Name or service not known</p>	<p>Office 365 にアクセスできない状態です。 ログメッセージに記載されているアドレスに NI 製品の WEB サーバーから通信できる環境が必要となります。</p>
<p>予定表取得処理でエラーが発生しました。</p>	<p>Azure AD アプリケーションにアクセス許可の設定がされていない状態です。 アクセス許可が必要となります。 「2-2-2. Azure AD アプリケーションの登録」を参照して設定を行ってください。</p>

○ 商標

本説明書に登場する会社名、製品名は各社の登録商標、商標です。

○ 免責

本説明書に掲載されている手順による操作の結果、ハード機器に万一障害などが発生しても、弊社では一切の責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

○ 発行

2020年10月26日 第8版

株式会社 **NI**コンサルティング

サポートデスク

E-mail : support@ni-consul.co.jp Fax : 082-511-2226

営業時間 : 月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00 (当社休業日、土・日・祝日を除く)